

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和7年度第1回高松市コンパクト・エコシティ推進懇談会
開催日時	令和7年5月21日（水） 13時30分～14時30分
開催場所	高松市役所11階114会議室
議 題	（1）「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に掲げる施策等の進捗状況について （2）「高松市住生活基本計画」に掲げる施策等の進捗状況について （3）高松市立地適正化計画及び多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画の改定について （4）その他（高松市都市計画マスタープランの改定）について
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	—
出席委員	嘉門会長、高塚副会長、杉本委員、土井委員、中橋委員、古川委員、吉田委員、鈴木委員、永原委員
オブザーバー	国土交通省 四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 課長 香川県 土木部 都市計画課 課長
傍聴者	4名（定員 10名）
担当課及び連絡先	都市計画課 TEL：087-839-2455

会議経過及び会議結果
（1）事務局から、「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」に掲げる施策等の進捗状況について説明を行った。 （会長） 目標値が2028年となっているが、早くも目標値を超えている指標が2つあるのは、目標値の設定として、正しいのか。 特に中心市街地の魅力の強化について、通行量のみで評価するのはいかなるものかと感じる。 （2）事務局から、「高松市住生活基本計画」に掲げる施策等の進捗状況について説明を行った。 （会長） 指標5（市内における空き家バンク成約件数）と指標7（長期優良住宅の認定件数）について、単年度の目標値の設定根拠を教えてください。 （事務局） まず、指標5に関しては、令和2年度の計画策定当時の成約件数である、145件を基準と

し、毎年１０件ずつ増えていくという見通しをたて、目標である令和１３年には、１００件追加した数字である２４５件を目標値とした。

また、指標７に関しては、香川県の認定件数の約半分が市の認定件数となっているため、県の住生活基本計画の目標値に即す形で、目標値を設定している。

（会長）

単年度の目標値よりも、累計の目標値のみ記載した方が分かりやすいため、検討をお願いしたい。

（事務局）

今後の懇談会においては、資料の見せ方を検討したいと考える。

（会長）

また、本会にあまり関係はしないが、近年問題となっている下水道管の老朽化については、高松市ではどのような状況か。

（事務局）

直接の担当課がないため、ざっくりとした説明にはなるが、八潮市の規模程ではないものの、本市内においても下水道管の老朽化による陥没はまれに起きている状況である。

（会長）

高松市に多く埋設されている下水管の管径はあまり大きくないのか。

また、形式は合流式を採用しているのか。

（事務局）

中心市街地においては、古くから埋設を行っているが、旧市街地では合流式を採用している。

一方で、新市街地付近は分流式を採用している。

終末処理場については、大きく２箇所、東部の屋島と、西部の香西に設置しており、終末処理場に近い箇所については、大口径の管が埋設されている。

流下時間が長くなると、汚水の腐敗も激しくなるため、大口径の管については、全国で緊急調査を行っており、本市も追って調査を行っていくという状況である。

（会長）

本計画は住環境の計画であるため、老朽化についても検討していく必要があると感じる。

（高塚委員）

成果指標に関して、目標値の算出根拠についてまとめられた資料を、机上配布した方がより議論がしやすいと感じるためお願いしたい。

（事務局）

承知した。

（３）事務局から、高松市立地適正化計画及び多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画の改定について説明を行った。

（会長）

パブリックコメントについて、１人で９件の指摘をしている方がいるが、このような熱心な方がいることは心強く感じる。

(4) 事務局から、その他（高松市都市計画マスタープランの改定）について説明を行った。

(会長)

話が戻るが、議事3について、計画の改定は6月下旬になることを御承知おきいただきたい。

最後に、本会全体を通じて意見があれば、御発言いただきたい。

(古川_康委員)

2点あるが、まずはコンパクト・エコシティ推進計画に関する、成果指標の目標値について、国等の指針に基づくものなのか、市独自に定めたものか確認したい。

というのも、高松市の商店街は大変賑わっており、全国的にもかなり有名な商店街である。

近くの坂出市では、すでにアーケードを撤去しており、県下でも組合員不足により、2つの振興組合が、今年解散するという状況になっている。

このように、実は全国的に商店街の運営は厳しい状態となっており、そういった内容が目標値に反映されてるのかというのが疑問である。

2点目は、市の中で民泊の数を把握しているか確認したい。

空き家対策として、空き家を民泊として運営するという新たなビジネスが動き出す可能性があるため、民泊の数を把握しておく必要があると考える。

(事務局)

1点目の目標値の設定根拠については、市独自に設定しているものである。

目標値としているものの内、より良いものを目指し、積み上げていく考えのものと、維持継続をしていく考えのものの2種類がある。

維持継続をしていく考えの目標値については、本来であれば、現状に合わせ改定していくべきなのかもしれないが、コロナ等の不測の事態にあっても、現状の数値を維持継続するという目標でもあるため、あくまでも当初設定した目標値をもとに評価していきたいと考えている。

2点目については、市では把握していないため、何らかの形で回答していきたいと考える。

(古川_康委員)

急な質問のため、今わからなければ結構だが、もし把握ができるようであれば、お知らせいただきたい。

また、近年はオーバーツーリズム気味であり、地域住民から不安の声も挙がっているため、この場でお伝えをさせていただいた。

以上をもって、今回の会議を閉会することとした。

以上